

桑名版ブックスタート

# ゆめはま文庫

乳幼児向け絵本リスト



桑名市立図書館

## 《ゆめはま文庫とは》

子育て中で、初めての絵本や乳幼児期にどんな絵本を読んであげればよいか悩まれる保護者の方、また、なかなか図書館まで足を運べない保護者の方向けに、乳幼児向けの絵本（5冊）をセットにした《ゆめはま文庫》の貸出しを行っております。

市内の司書、保育士、保健師、文庫運営者、有識者で乳幼児期に適した絵本を選定し、5冊セットにしたものを、専用のバッグに入れて貸出します。

お子さまの年齢ごとに、昔から親しまれているロングセラー絵本や、成長に寄り添う絵本をセットにしました。ぜひご家庭での読み聞かせにお役立てください。

## 《利用について》

- ◆ 利用対象 市内にお住まいの方
  
- ◆ 絵本の対象年齢
  - ①0歳のセット（はじめてセット）※A・B 各2種
  - ②1歳のセット（よちよちセット）※A・B・C 各3種
  - ③2歳のセット（わくわくセット）※A・B・C 各3種
  
- ◆ 貸出・返却場所
  - ①桑名市立中央図書館 カウンター（9時～21時）
  - ②ふるさと多度文学館 カウンター（9時～17時）
  - ③長島輪中図書館 カウンター（9時～17時）
  - ④桑名市子ども・子育て応援センター「ぽかぽか」（月1回）
  
- ◆ 貸出方法 申込用紙に、氏名、図書館の利用券番号をご記入ください  
（利用券をお持ちでない方は、氏名・住所・電話番号をご記入ください）
  
- ◆ 貸出期間 2週間 ※延長もできますが、お待ちの方がみえる場合はできません。

たくさんのお子どもたちに絵本が届き  
絵本の楽しさを知り  
読書に親しんでいただけるよう、願っています！



## ゆめはま文庫 Q & A

Q 0歳の赤ちゃんに絵本がわかるのですか？また必要なのでしょうか？

A 赤ちゃんは家族の方をはじめ、周りの方からくり返し話しかけられたことばを耳で聞き、語り手のことばと一緒に人間の豊かな喜怒哀楽も覚えます。

赤ちゃんとコミュニケーションをとることは、人間らしい心を育てていくためにとても大切です。絵本は豊かな言葉の宝庫です。絵本を読んであげることによって赤ちゃんを豊かな言葉の世界へ導くことができます。

Q 「ゆめはま文庫」を借りる時に図書館の利用券は必要でしょうか？

A 図書館の利用券は必要ありませんが、お持ちの場合、貸出手続きが簡易化されます。

Q 住所は桑名市外ですが、借りることができますか？

A 申し訳ありませんが、桑名市内の方に限らせていただいております。

Q 図書館の返却ポストに入れることはできますか？

A 返却ポストには入れることはできません。

市内図書館の開館時間内または、子ども・子育て応援センター「ぽかぽか」にご返却ください。

Q 貸出し期間は2週間ですが、延長はできますか？

A 他にお待ちの方がみえなければ延長できますので、お借りになった所まで、お問い合わせください。※「ぽかぽか」で借りられた方は、中央図書館へお問い合わせください。

Q 「ゆめはま文庫」の絵本しか読み聞かせには適さないのでしょうか？

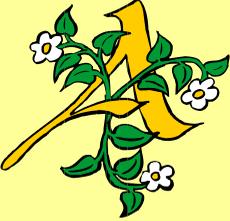
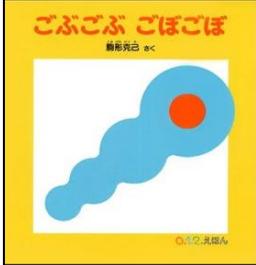
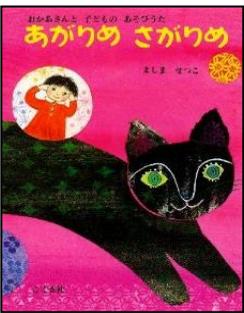
A 「ゆめはま文庫」だけが、子どもに読んであげるべき絵本というわけではありません。

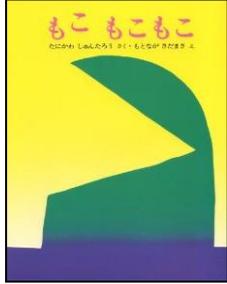
家族の方の声で読んであげることがお子さんにとって一番の喜びになります。

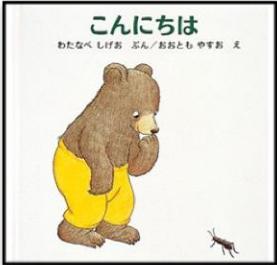
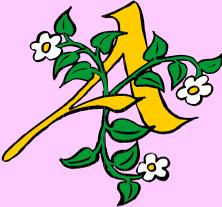
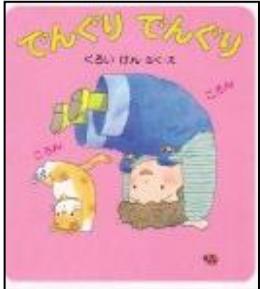
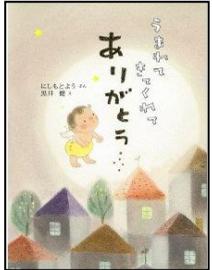
その他の絵本についても家族の方で選んでいただき読んであげてください。

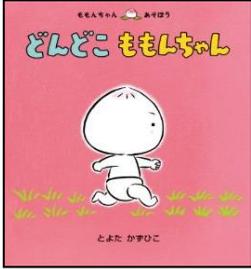
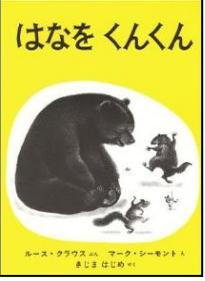
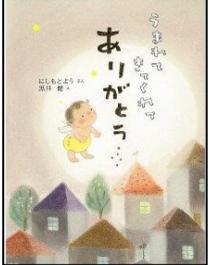
Q 読み聞かせボランティアをしています。保育園などでの読み聞かせで使いたいのので借りることはできますか？

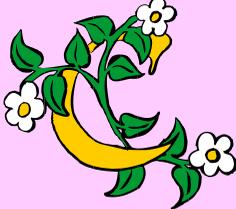
A 市内にお住まいの方であれば、どなたでもご利用いただけます。ぜひご活用ください。

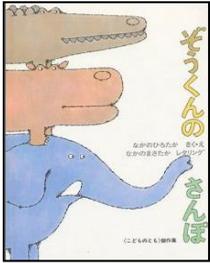
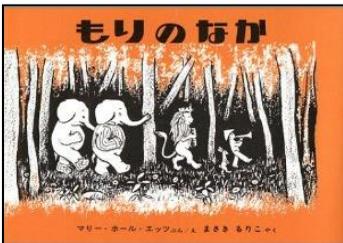
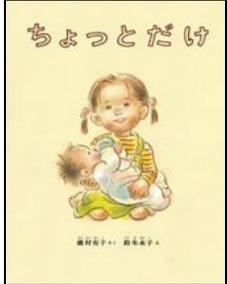
<p>『いないいないばあ』</p> <p>松谷 みよ子/作</p> <p>瀬川 康男/画</p> <p>童心社 (1967年刊)</p> <p>「松谷みよ子あかちゃんの本」として出版されてから、ずっと愛され続けています。</p> <p>あかちゃんのだいすきな「いないいないばあ」が絵本といっしょに楽しめます。</p> 	<p>0歳</p> <p>はじめてセット A</p> 	<p>『ごぶごぶ ごぼごぼ』</p> <p>駒形 克己/作</p> <p>福音館書店 (1997年刊)</p> <p>あかちゃんがだいすきな、まるいかたちがいっぱい。その〇の中にゆびをいれて遊ぶことができます。</p> <p>遊んでいるうちに、あかちゃんもいっしょに「ぷ ぷ ぷ」と声を出そうとしますよ！</p> 
<p>『がたんごとん がたんごとん』</p> <p>安西 水丸/作</p> <p>福音館書店 (1987年刊)</p> <p>がたんごとん がたんごとんと汽車がやってきます。</p> <p>「のせてくださーい」と待っているのは…。</p> <p>貨物車がどんどんいっぱいになっていきます。</p> <p>引っ張っている汽車のお顔も重くなるにつれて変化します。</p> 	<p>『あがりめ さがりめ』</p> <p>ましま せつこ/絵</p> <p>こぐま社 (1994年刊)</p> <p>おうちの人で歌いながら、リズムに合わせてあかちゃんの体に触れたり遊んであげると、しあわせな思いがあかちゃんの記憶に残ります。</p> <p>だんだん反応して体を動かしたり笑うようになります。</p> <p>親子のコミュニケーションにどうぞ。</p> 	<p>『かみさまからのおくりもの』</p> <p>ひぐち みちこ/作</p> <p>こぐま社 (1984年刊)</p> <p>あかちゃんの健やかな成長を願って、おかあさんやおうちの人にぜひ読んで欲しい絵本としてリストに入れました。</p> <p>じんわりと心に響く絵本です。</p> 

<p>『くだもの』 平山 和子/作</p> <p>福音館書店 (1979年刊)</p> <p>身近なくだものがたくさんでてきます。 ページをめくって「さあ、どうぞ。」と声をかけてあげると、あかちゃんもよだれを垂らすくらいおいしそうな絵です。 くりかえしのことばが耳に心地よいです。</p> 	<p>0歳</p> <p>はじめてセット B</p>  <p>あかちゃんは、くり返しの言葉やおもしろい響きのあることばが大好き。耳に残ると、お口を動かしてまねしようとするのも…。あかちゃんのかわいい反応を楽しんでください。</p>	<p>『もこもこもこ』 谷川 俊太郎/作 元永 定正/絵</p> <p>文研出版 (1977年刊)</p> <p>絵とことばがみごとにマッチした絵本の世界へどうぞ！ 「もぐもぐ」・「ぱく」はあかちゃんの好きなことば。 その他、いろんなことばの世界が広がります。 何度でもくりかえして読んであげてください。</p> 
<p>『じゃあじゃあ びりびり』 まつい のりこ/作</p> <p>偕成社 (1983年刊)</p> <p>あかちゃんがはじめて出会うオノマトペ（擬音語）がたくさん出てきます。 あかちゃんはリズムのある言葉が大好きです。 言葉が体験と結びついた時、あかちゃんの世界が、ぐんと広がります。</p> 	<p>『ととけっこう よがあげた』 こばやし えみこ/案 ましま せつこ/絵</p> <p>こぐま社 (2005年刊)</p> <p>「ととけっこう よがあげた」のわらべうたにあわせてページをめくると、元気なにととりが動物のこどもたちを起こしてくれます。 かんたんな節にあわせて毎朝の「おはよう」に使ってください。</p> 	<p>『かみさまからのおくりもの』 ひぐち みちこ/作</p> <p>こぐま社 (1984年刊)</p> <p>あかちゃんの健やかな成長を願って、おかあさんや おうちの人にぜひ読んで欲しい絵本としてリストに入れました。 じんわりと心に響く絵本です。</p> 

<p>『こんにちは』</p> <p>わたなべ しげお/文</p> <p>おおとも やすお/絵</p> <p>福音館書店 (1979年刊)</p> <p>「こんにちは」は、まほうのことば。 ここから、たくさんの出会いが始まる、ということが素敵に伝わる絵本です。 1歳になってはじめての「せいかつ絵本」としてどうぞ。</p> 	<p>1歳</p> <p>よちよちセット A</p> 	<p>『いいおかお』</p> <p>松谷 みよ子/文</p> <p>瀬川 康男/画</p> <p>童心社 (1967年刊)</p> <p>「いいおかお」ってどんなおかおかな？この絵本を読んでいくと、自然に「いいおかお」になりますよ。 「いいおかお」は、しあわせのしるし。 「いいおかお」が、どんどんふえていくといいなあ。</p> 
<p>『でんぐり でんぐり』</p> <p>くろい けん/作・絵</p> <p>あかね書房 (1982年刊)</p> <p>けんちゃんがでんぐりがえりをするよ、ころん。 ねこちゃんもまねして、ころんころん。動物が増える度に、ころん、ころんがふえていきます。 くりかえしのリズムが楽しい絵本です。</p> 	<p>『おつきさまこんばんは』</p> <p>林 明子/作</p> <p>福音館書店 (1986年刊)</p> <p>くらい夜空に、ぽっかりおつきさまがでてきたよ。明るいね。 何度も読んでいくと、おつきさまを見た時、自然と「こんばんは」のこたばがでてきます。まんまるおつきさまを見たら、笑っているように見えるかもしれません。</p> 	<p>『うまれてきてくれてありがとう』</p> <p>にしもと よう/文</p> <p>黒井 健/絵</p> <p>童心社 (2011年刊)</p> <p>これは、おかあさんに紹介したい1冊です。 つい忘れてしまいがちだけど「うまれてきてくれてありがとう」の気持ち、大切にしたいですね。 出会ったあの日にタイムスリップできます。</p> 

<p>『どんどこももんちゃん』 とよた かずひこ/作・絵</p> <p>童心社 (2001年刊)</p> <p>どんどこどんどこ、ももんちゃんが急いでいます。くまがとおせんぼしても、坂道でころんだって、行きたいところにまっしぐら。ももんちゃんが子どもから絶大な人気がある理由、わかります。</p> 	<p>1歳</p> <p>よちよちセット B</p> 	<p>『いやだいやだ』 せな けいこ/作・絵</p> <p>福音館書店 (1969年刊)</p> <p>1歳半を過ぎたころから、「いや」と言うことが多くなります。これも子どもの成長のしるし。はじめての自我の目覚めなんです。おうちの人にとっては大変なこともありますよね。そんな時期を絵本が少し助けてくれます。</p> 
<p>『どうぶつのおやこ』 藪内 正幸/画</p> <p>福音館書店 (1966年刊)</p> <p>この絵本には文字はひとつもありません。でも子どもをおひざにのせてページをめくれば、きっといろいろなことばが交わされることでしょう。細密に描かれた、慈しみあふ動物の姿が大切なことを伝えてくれます。</p> 	<p>『はなをくんくん』 ルース・クラウド/文 マーク・シーモント/絵 きじま はじめ/訳 福音館書店 (1967年刊)</p> <p>かすかな香りに誘われ、まっしろな雪の中で森の動物たちが見つけたのは…。白と黒だけで動物たちの表情やざわめきが豊かに伝わります。最後のページは、春を見つけた喜びに満ち溢れています。</p> 	<p>『うまれてきてくれてありがとう』 にしもと よう/文 黒井 健/絵 童心社 (2011年刊)</p> <p>これは、おかあさんに紹介したい1冊です。つい忘れてしまいがちけど「うまれてきてくれてありがとう」の気持ち、大切にしたいですね。出会ったあの日にタイムスリップできます。</p> 

<p>『おにぎり』</p> <p>平山 英三/文</p> <p>平山 和子/絵</p> <p>福音館書店 (1981年刊)</p> <p>手のひらを山形にして、たきたてのごはんをぎゅっぎゅっとにぎったら、おいしいおにぎりのできあがり。</p> <p>いっしょに作りたくなりますよ。やわらかな手のひらの温かさが伝わってきます。</p> 	<p>1歳</p> <p>よちよちセット C</p> 	<p>『だるまさんが』</p> <p>かがくい ひろし/作</p> <p>ブロンズ新社 (2008年刊)</p> <p>「だるまさんが」とゆっくり読んで次のページをめくると、「どてっ」とだるまさんがみごとにころんでいます。子どもはこの場面に大喜び。ページをめくる毎に、思いがけないだるまさんの動きと変化に、目がくぎづけです。</p> 
<p>『きんぎょが にげた』</p> <p>五味 太郎/作</p> <p>福音館書店 (1977年刊)</p> <p>にげた「きんぎょ」をさがしましょう！</p> <p>なかなか上手に隠れているよ。次から次へと隠れる「きんぎょ」を見つけると、子どもたちは満足感でいっぱいになります。</p> <p>楽しい「かくれんぼ」絵本です。</p> 	<p>『あおくんと きいろちゃん』</p> <p>レオ・レオーニ/作</p> <p>藤田 圭雄/訳</p> <p>至光社 (1967年刊)</p> <p>あおときいろの丸たちが、ページをめくると主人公になって動きだして見えてきます。泣いている場面や笑ってる場面もほらっ表情に見えてきます。いっしょに指で形をなぞって、おはなしして遊んでいると、知らず知らずに「色」のおはなしになっている素敵な本です。</p> 	<p>『ちびゴリラのちびちび』</p> <p>ルース・ボーンスタイン/作</p> <p>いわた みみ/訳</p> <p>ほるぷ出版 (1978年刊)</p> <p>ちいさなかわいいゴリラのちびちびは、みんなの人気者。</p> <p>お子さんは「ちびちび」の気持ちで、おはなしを聞くことでしょう。</p> <p>愛されているという思いは子どもの成長にとっても大切。</p> <p>おたんじょうびのころ、ぜひ、読んであげてください。</p> 

<p>『ぞうくんのさんぽ』  なかの ひろたか/作・絵  なかの まさたか/レタリング  福音館書店 (1968年刊)</p> <p>ぞうくんが「さんぽ」にでかけます。  かばくんや、わにくんと出会って  いっしょに「さんぽ」にでかける  ことに・・・。  ぞうくんはカもちでやさしいね。さ  いごの「どっぼーん」が気もちよく  て、しあわせな気分になります。</p> 	<p>2歳</p> <p>わくわくセット A</p>  <p>2歳の頃には話す「ことば」が急  に増えてきます。絵本がきっか  けになること・・・。  子どもにとって絵本は未知の世界  への入り口です。  「きょうはどこへいこうか？」</p>	<p>『はらぺこ あおむし』  エリック・カール/作  もり ひさし/訳  偕成社 (1976年刊)</p> <p>日曜日の朝、たまごからうまれたあ  おむしはすごい食欲です。  月曜日にはりんごをひとつ、火曜日  になしをふたつ、水曜日にすももを  みつつ…と食べる物が増えていき  …。  食べた後は穴が空いているという、  とても愉快なしかけ絵本です。</p> 
<p>『もりのなか』  マリー・ホール・エッツ/文・絵  まさき るりこ/訳  福音館書店 (1963年刊)</p> <p>子どもをおひざに載せて、お互いに  体温を感じながら読んであげてくだ  さい。  白と黒だけで描かれていますが、  絵とことばが「もりのなか」に誘い  出してくれます。  素敵な絵本の世界へさあ、出発！</p> 	<p>『ねずみくんのチョコッキ』  なかえ よしを/作  上野 紀子/絵  ポプラ社 (1974年刊)</p> <p>おかあさんが編んでくれた赤い  チョコッキ。ぼくにぴったり！とねず  みくんは得意顔。あひるが「いい  チョコッキだね。」とちょっと借りて  いったばかりに…チョコッキは伸び  きってしまいますが、最後のページ  で「ふふ」と笑えます。</p> 	<p>『ちよっとだけ』  瀧村 有子/作  鈴木 永子/絵  福音館書店 (2005年刊)</p> <p>なっちゃんは、まだ甘えたいのに赤  ちゃんがやってきた日からお姉ちゃ  んになりました。  「ちよっとだけ」できることが増  えて、一人で頑張る姿が健気です。  時には赤ちゃんに「ちよっとだけ」  がまんしてもらって優先してあげた  いですね。</p> 

『ぐりとぐら』

なかがわ りえこ/作

おおむら ゆりこ/絵

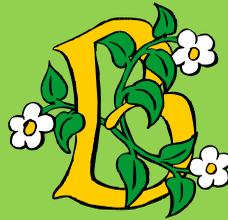
福音館書店 (1963年刊)

のねずみのぐりとぐらがどんぐりひろいにでかけると、道の真ん中に大きなたまごが落ちていました。ふたりはおうちに持って帰ろうとしましたが・・・。  
図書館でいつも貸出中になるほどの人気絵本です。



2歳

わくわくセット B



2歳を過ぎると、少し長いおはなしも楽しめるようになります。主人公になった気持ちで絵本の世界に入っていきことも…。子どもは冒険が大好き。絵本で世界が広がります。

『おおきなかぶ』

ロシア民話 A.トルストイ再話  
佐藤 忠良/画

内田 莉莎子/訳

福音館書店 (1962年刊)

おじいさんが「あまいあまいかぶになれ。おおきなおおきなかぶになれ」と言って植えたかぶは、とてつもなく大きいかぶになりました。ことばと絵がよく合っていて、ページをめくるのが楽しくなります。



『おんなじ おんなじ』

多田 ヒロシ/著

こぐま社 (1968年刊)

2歳頃になると、「おんなじ」と「ちがう」に関心がでてくるようです。なかよしの「ぶう」と「びよん」はおそろいのくつに、おそろいのぼうし。「おんなじだね」と声にだしてひとつひとつ、いっしょに見てあげてください。

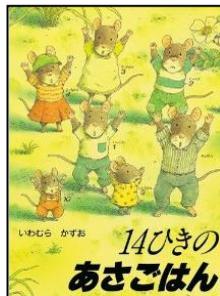


『14ひきの あさごはん』

いわむら かずお/作

童心社 (1983年刊)

おとうさん おかあさん おじいさん おばあさん そしてきょうだい10ひきのねずみの大家族のおはなしです。みんなで作った朝ごはんはとてもおいしそう！細かい所まで描かれていて、親子でいろいろ見つけて楽しめます。



『おでかけのまえに』

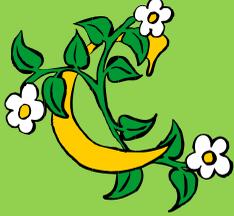
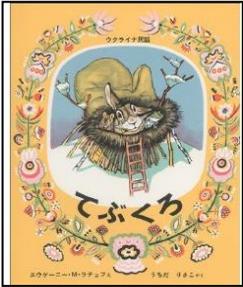
筒井 頼子/作

林 明子/絵

福音館書店 (1980年刊)

ピクニックに行くのをとても楽しみにしているあやこは、晴れたことがうれしくてたまりません。お手伝いしてくれるのですが、かえて手のかかることに……。親は悲鳴を上げそうな展開ですが、子どもの行動がよく描かれていて温かいです。



<p>『はけたよ はけたよ』  かんざわ としこ/文  にしまき かやこ/絵  偕成社 (1970年刊)</p> <p>子どもは毎日成長します。昨日できなかったことが、今日は、するりとできることもあります。うれしそうに「見て見て！」と何度も見せにきます。お子さんの誇らしい気持ちを大切に、そんな時期に読んであげてほしい絵本です。</p> 	<p style="text-align: center;">2歳</p> <p style="text-align: center;">わくわくセット C</p> 	<p>『しろくまちゃんのほっとけーき』  わかやま けん/著  こぐま社 (1972年刊)</p> <p>ほっとけーきを焼く時の「ぼたあん」「どろどろ」「ぴちぴち」「ぶつぶつ」そして、「しゅっ」「ぺたん」と返す音。おいしい体験といっしょになると、忘れられない一冊になるでしょう。2歳頃になると、絵を読んでも、いろいろ発見してくれます。</p> 
<p>『てぶくろ』 ウクライナ民話  エウゲーニー・M・ラチョフ/絵  うちだ りさこ/訳  福音館書店 (1965年刊)</p> <p>「てぶくろ」が動物でどんどんいっぱいになって、きゅうくつになります。そのきゅうくつさを想像しながら、子どもたちは「入れて」や「どうぞ」のくりかえしのやりとりを、とても楽しめます。親子で「ごっこあそび」も楽しんでください。</p> 	<p>『わたしのワンピース』  にしまき かやこ/絵と文  こぐま社 (1969年刊)</p> <p>うさぎさんがミシンカタカタって作ったワンピースはふしぎなワンピース。お散歩していると、まっ白いワンピースから、水玉もようになり、星のもようになるのです。うさぎさんの「にあうかしら？」の問いかけに、いっしょに答えてあげてください。</p> 	<p>『おとうさん あそぼう』  わたなべ しげお/文  おおとも やすお/絵  福音館書店 (1984年刊)</p> <p>最近「イクメン」なるパパの活躍もよく耳にします。「どんなふうに子どもと遊んだらいいのかな？」という声も…。簡単なふれあいあそびがいくつも載っていて、お子さんと楽しい時間がすごせますよ！</p> 



## 桑名版ブックスタート ゆめはま文庫 乳幼児向け絵本リスト

### ◆発行日

平成23年8月発行  
平成30年5月（第4版）

### ◆お問い合わせ

#### <中央図書館>

〒511-0068 三重県桑名市中央町 3丁目79番地  
TEL：0594-22-0562 FAX：0594-22-0795

#### <ふるさと多度文学館>

〒511-0106 三重県桑名市多度町多度 2丁目24-1  
TEL：0594-48-7000 FAX：0594-48-7002

#### <長島輪中図書館>

〒511-1125 三重県桑名市長島町源部外面 337番地  
TEL：0594-41-1040 FAX：0594-41-1044